

# 平成29年度 第2回学校評議員会（学校関係者評価会議）記録

秋田県立湯沢高等学校

1. 日 時 平成30年2月15日（木）16:00～17:00

2. 場 所 本校 会議室

3. 出席者 16名（学校評議員2名、PTA関係2名、学校職員12名）

## 4. 次 第

### （1）開会のことば

### （2）校長あいさつ

本校の1年の締めくくりとして皆様の御意見を伺う機会である。よりよい湯沢高校にするために御意見、御助言を役立たせていきたい。

### （3）学校状況説明

#### ① 進路指導について（進路指導部）

- ・ P1はセンター試験前の出願、合否状況を載せている。弘前大、秋田大の理工、東北大など\*（アスタリスク）が付いている大学はAO入試の結果である。\*の付いていない大学は推薦入試である。右側記載の○の付いてある大学は指定校での合格状況である。
- ・ P2はセンター受験後に選抜されるAO入試の合否状況である。先日、業者から届いた秋田県内の推薦、AO入試の集計結果では本校は合格者が一番多く、たくさんチャレンジした成果である。
- ・ P2は短大、私立大学、専修学校の合否状況である。3年生は現在199名在籍しているが、第一志望の進路が決定している生徒は68名で1/3強の生徒が決定している。2月25、26日に行われる前期試験には、119名の生徒が受験する予定である。秋田大学の受験者は47名、新潟大学は9名、岩手大学7名である。後期の受験者は107名が出願している。私立大学は延べ人数になるが、241名が出願しており、東北地区では、東北学院大学、東北福祉大学が20名、関東地区では、日本大学、法政大学が10名以上の志願者がいる。

#### ② 特別活動について（特別活動部）

- ・ 部活動の大会成績は記載のとおり。
- ・ ハンドボール部男女がインターハイに出場することができた。男女揃っての出場は平成24年度以来5年ぶりである。女子ハンドボール部は3月に行われる全国選抜大会の出場権も獲得している。この他、水泳部は個人種目で東北大会2種目に出場した。また、文化部では、演劇部が東北大会に出場している。
- ・ 今年度新たに女子バスケットボール同好会が設立し活動を始めている。
- ・ どの部活も、ハンドボール部や演劇部の活躍に刺激を受けながら、上位大会を目指して頑張っているところである。

### （4）学校評価について

#### ① 学校評価（保護者）について（総務部）

各項目の平均順位は、昨年度とほぼ同じとなっている。項目4：「教育内容は生徒、保護者の期待に込んでいるか」の評価結果は昨年度9位から今年度21位と下がってしまった。全体的にみると、1位から5位には会計処理や個人情報の適切さや保護者面談が行われているかなど、公務員としての規律に真摯に向き合っていることが評価を得られた。項目8：「ボランティア活動等地域の期待に込んでいるか」、項目5：「校内活動を保護者や地域に発信しているか」、項目3：「保護者、地域との連携を深め、社会に有為な人材育成に努めているか」、は昨年度と同様に評価が低かった。アピール不足と、他校に比べてボランティア活動を大々

的に行っていないことが低い評価に繋がった。アピールという点では、校舎が国道から離れているという立地条件も影響している。他校と違い、部活動等の戦績の垂れ幕を下げて保護者等観る人が限られてしまうので、張り出す場所について同窓会の方々に相談するつもりでいる。教科指導の項目11、項目12も評価が低く、今後校内研修等を行い真摯に取り組まなければならないと考えている。

## ② 授業評価（生徒）について（教務部）

毎年、年2回7月の1学期末考査終了後と11月の2学期末考査終了後に生徒対象に授業アンケートを行っている。今回資料は11月実施の結果である。設問項目は9つあり、4択で解答してもらう。アンケート結果の表の見方を国語総合（現代文）の1の解答1で説明すると、昨年度は25.7%に対し今年度80.4%で前年度比25.7ポイント上回ったということである。昨年度比が10ポイント以上だと網掛けをしている。生徒にアンケートを行い授業改善の一つとして役立てている。下段は昨年度の1年生、上段は今年度の1年生なので定点観測になる。しかし、1年生の国語総合の教科担任が同じ教員とは限らないため、評価を単純に比較することは難しい。

## ③ 分掌、教科について（教頭）

平成34年度学習指導要領改訂に伴い多方面で教育改革が動き出している。それにどう対応していくかが、各分掌の課題となっている。

## ④ 学校評価（職員）について（教頭）

P44職員アンケート集計の「授業・学習」の区分では、授業の仕方や生徒の態度は高く評価しているが、「生徒が理解できない、伸びてこない」という問題を抱えていることがわかる。この点から言えることは、このギャップをなくすためにはこれまでと同じ授業観ではいけないということ。生徒の学力を高めていくためには、新たな挑戦をしていくことが必要だということである。

また、本校からの情報発信や、地域と連携した活動などが十分にできていないという反省がある。「学級通信」については、小学校や中学校のように頻繁に出すことは難しいが、伝えるべきことを効率的にしっかりと伝えることを考えていかなければならない。「地域連携」については、なかなか目立たないが、年々ボランティア活動やインターンシップに参加する生徒は増加している。進路決定の前に、地元企業について知識を持って判断できるような指導にも取り組んでいるところである。

来年度以降の入学生は大学入試制度が変わり、高校での学習以外の活動への取組も調査書等に記載し評価されることを踏まえて、探究的な活動を推進していきたい。研究テーマを地域に関わることにすれば、「地域との連携、地域を知る」活動も充実させることができる。新1年部を中心に段階的に実践していく予定である。

## (5) 協議

### 学校評議員A

- ・保護者からの自由記述の中に校舎が寒いという記述が何名かいるが、寒さ対策を学校任せにせず、各家庭で寒くないように衣服で調整できる工夫をしてもよいと思う。
- ・学習指導要領が改訂されることやボランティアについて教頭先生が話されていたが、湯沢高校は進学校としてぶれないでほしい。ボランティア活動も進学校らしい方法があると思う。湯沢市内の中学校や保護者は湯沢高校で学び進学するというのが大方の希望である。その希望を抱かせてくれているのは湯沢高校の先生方が校長先生を中心に頑張っているおかげだと思う。しかし中には普通科のある他の学校でプレッシャーのない環境で学びたい生徒もいる。
- ・授業の工夫、改善を今後も先生方に頑張ってもらいたいが、小中学校と高校の授業の持ち方は違う。高校は学校独自の授業の持ち方、在り方があるだろうが、小中学校はどの学校も決められた授業形態があり、この成果で基礎的な学力状況調査で上位を占めることに繋がっている。あくまで基礎、基本の定着が目的であり、大学入学や進路決定と一致するわけではない。新しい学習指導要領を基にして湯沢高校としての方向性を市民の方々の声も参考にして頑張ってもらいたい。

- ・自分も教員だったせいか、学校任せと思える保護者の意見が多いように感じる。小中学校と高校では、教育文化が違うので頻繁に学級通信を出さなくても考査後の成績表の発送時に同封する程度で十分だと思う。PTA総会に人数が集まらない状況の中で、保護者アンケートには意見を寄せてくるのもどうかと思う。

#### 事務長

- ・暖房の件について、本校はボイラーで蒸気を上げる旧来型の暖房設備である。平成13年にラジエーターを新しくしたが、設備全体を変えたわけではないのでなかなか暖まらない。学校全体を暖めるために必要以上の節約はしていない。7時半から10時までボイラーを稼働させ、1時間休ませ、11時から連続して稼働させ1日約平均6時間は稼働させている。しかし、本校の構造上、全館を暖めるまでに途中で熱が逃げてしまうこともあり効率が悪くなる。節約しすぎて寒くなるのではない。暖房設備の更新を県にお願いしているが莫大な経費がかかるのですぐには取りかかれぬとのこと。今後はボイラーの稼働時間を延長し寒さ対策をしていきたいが燃料の重油は毎日4万円程の経費がかかり、学校予算の1/3は暖房費に充てられているがPTA会計等からの支払いで対応していきたい。

#### 教頭

- ・保護者アンケートの回答を印刷し2月中に全学年に配付予定でいる。

#### 学校評議員B

- ・学校評価を拝見し、先生方が一生懸命に頑張ってくださっていることに感謝申し上げたい。
- ・全学年の報告より1年部の報告から長期欠席、早退、基礎学力が備わっていない、進路意識の問題がでており生徒の学力差への対応では先生方は難儀されていると感じた。
- ・PTA総会の参加人数が少ない、校舎が寒いという声があるが服装等で寒さへの対応を各家庭でも工夫しても良いと思う。
- ・生徒指導部の報告で登下校時の重大な事故はないがヒヤリとする場面があるようだが、私も仕事帰りに旧道を通るが、暗くなると下校中の生徒が見えにくいことが多々ある。遅い時間に下校する場合は反射テープ等身につけてくれれば大分ドライバーも気がつきやすいのではないか。
- ・進路指導部の目標で進路の早期決定のためには、生徒自身の目的意識の薄さが学力の向上に繋がらないからではないか。
- ・地歴公民科の選挙権を有している生徒の投票状況を調査したようだが、実際に投票した生徒の感想など聞かせていただきたい。
- ・数学科では生徒の計算力の低下が著しい状況を踏まえ計算力の向上に向けた対策を検討しているとのことだが、現在検討し報告できることがあれば教えていただきたい。
- ・保護者へのアンケートについては、それぞれの課題や達成状況を報告していただいたが、全体への提言の記入がないので、取組について考えがあれば教えていただきたい。

#### 生徒指導部

- ・登下校時の交通安全対策については非常に難しい。近隣の方や他校の先生方と連絡を取り合う機会は定期的にあるが、本校の生徒の通学状況は非常に目に余るようだ。言い過ぎかもしれないが、通学路の状況が不便なのだとして生徒は開き直っているような気がするので、街の人たちとの感覚とずれないように訴えていきたいと考えている。

#### 学校評議員B

- ・これまでは大きな事故はなかつただろうが、今後事故につながると大変である。

#### 1年部

- ・私の教科は数学だが、例年生徒の計算力の低下が数学科でも話題になる。1年生は教科書の内容も含めて10分から15分程度の計算テストを行っている。それにより、何が理解できて、何が理解できないのか生徒も教員も把握することができると思うが、現在は実験的に行い分析している最中である。

#### 2年部

- ・学力の低下といわれるが生徒は非常に真面目に勉強に取り組んでいるように見え、また、生徒に聞いてみると全く勉強していないわけではない。しかしスマートフォンで勉強している実態がある。自分が分からない問題をLINEに挙げると、解けた人が画像で解答を送ってくれる。また、教科書の内容をスマートフォンに画像で取り込み登下校時に車中で見るという方法で勉強している。これでは今我々が望むような力は定着しない。生徒にとってスマー

トフォンは物心ついた時からあったので新しい世代への指導法がなかなか確立していないのが現状である。生徒は真面目でよく頑張っており、決して見劣りしない。

### 3年部

- ・現3年生を1年生から受け持っており、担当は英語だが前年の成績を上回ることができていない学年である。例年並みの内容でこの3年間取り組んできたが、宿題はこなすだけで、自ら考える姿勢が少なかったように思う。英語は積み重ねが大事だが積み重ねが不十分だったと感じた。3年生の1年間は、昨年度3年生を担当した先生と協力してセンター試験で英語の平均は3桁をとることができた。なかなか思いどおりにいかなかったというのが正直な感想である。

### 教頭

- ・ややもすると「キャリア教育」という活動は、進路を決定させることのように部分的な解釈でしか捉えられない場合がある。キャリア教育はあらゆる教育活動を通して行われるもので、授業でも部活動でも意識して取り組んでいくことを私たちがしっかりと認識し、その実践を発信していくことが全体への提言ではないか。つまり勉強の意義や社会のことを考えたり、自分の意見を表現し発表したりする活動も含めて、生徒の生き方の土台をつくる教育をしているということを発信していくべきである。

### PTA関係A

- ・湯沢高校は土曜補習があり大変かと思っただが、いざ子供を卒業させる立場になってみると、校長先生はじめ、先生方には大変難儀を掛けたと思っている。家庭での勉強ができる子とできない子がいると思うので、土曜日に補習が行われたことは良かったと思う。
- ・センター試験後の進路先についての面談は長男（他校卒）の場合は担任の先生と2人だったが、湯沢高校の場合は保護者も加わって3人で話し合えるので親としても安心感があった。湯沢高校は国公立への合格者増を目標にしているようだが、国公立を志望する生徒にも私大等を志望する生徒にも個々に合った進路指導をしてほしいと思う。私の住む地域は子供が減少傾向にあるので、大切な子供の将来を見据えた進路指導をしていただければありがたい。湯沢高校は全県一生徒が伸びる学校だという方もいるので、これからも子供たちが頑張れるように指導していただきたい。

### 進路指導部

- ・新テストに関してだが、2年生が昨年10月に新テストの数学のプレテストを受けた。全校の正解率が0.2%という問題も出題されていた。私たちがいろいろな情報を得なければ対策がつかれない。さらに、これからのセンター試験はWeb出願になるだろう。私立大学はWeb出願が増えており、何れ国公立大学も同様になっていくだろう。そうなると、生徒の高校時代の様々な活動の記録等もWeb出願の時に添付することができるようになるし、大学の一般入試では試験の点数以外に学校からの書類と高校時代の活動記録の書類が必要になってくることが考えられるので、3年間の活動をデータ化して積み重ねておく必要がある。後日先生方にも紹介するが、業者の教材で「ポートフォリオ」を管理するシステムがある。それを活用し自分の高校3年間の活動を点数以外で評価してもらって資料を蓄積するなどの対策を1年生のときから行うことも検討中である。他校では既に活用しているようだ。本校では取り入れるかまだ決定していないが、情報交換会にも職員に参加して先を見通して考えていきたい。

### 教頭

- ・土曜補習は学校全体の取組として考え、来年度も今年度とほぼ同様の日程で行う予定でいる。

### PTA関係B

- ・授業に対してのことや目標や課題については申し上げることはない。授業アンケートの目的は生徒から見た先生への改善点、改善の要望という意味があると思うが実施時期が11月30日なのでアンケート結果が出るのは年度末になるだろうし、教科担任も前年度と異なるということも踏まえ、先生方にはこの集計結果はいつ頃届くのか。
- ・PTAで学校にくる必要がある場合は来るようにしているが、この3年間で一番集中して聞いたのは受験前の学年の受験説明会である。開催時期はベストかもしれないが、もう少し早い時期に知りたかった内容であったと感じた。2年生の後半の時期の実施も良いと思った。また、PTA側で総会にそのような説明会実施の提案をしても良かったと感じた。

- ・指定校推薦の情報は子供たちには届いているのか。また、資料に記載されている湯沢高校の指定校推薦を受けられる大学は以前より少ないように思うが。

#### 進路指導部

- ・指定校推薦の希望者がいる大学だけを掲載しており、希望者がいなかった大学は掲載していない。

#### P T A関係B

- ・進学目的が将来的には地元に戻るための進学であってほしい。そのためには地域連携ということで仕事とは何かの指導にも力を入れてほしい。
- ・先程の校舎改築の話の際に羽後高校の話題があったが、私自身羽後町の住人なので羽後高校の存続を願っている。できれば羽後高校が将来的に湯沢高校の地域校にならないような方向で検討していただきたいと思っている。

#### 教務部

- ・授業アンケートは1学期末の7月、2学期末の12月の年2回実施している。7月の結果を受けて教科についての改善を得て2学期を通しての状況を分析し、更に前年度の結果と比較し分析している。

#### 2年部

- ・3年生になったら保護者の方と密に早い段階で連絡を取り合いたい。夏休みの前に保護者面談等の実施やP T Aを開催したくさんの保護者の方々に来ていただきたい。
- ・進路指導について、本校の校長に生徒と保護者を対象に講話をお願いしたが、平日でもあり保護者の方々の参加者は少なかったので開催時期も考えなければならぬと感じた。

#### 教頭

- ・本校の生徒が進学する前に地域のことを十分に知り、将来的には地元に戻ってくる人もいてほしいということに関しても、今年度は12月に地域振興局主催で、高校生を対象に地域の企業を知るという会があり、本校からは4名が参加している。この会の案内は1、2年生の保護者全員に通知したが、4名だけの参加というのは、保護者と生徒の意識の低さを感じた。学びたい分野や学部について知りたいという意識は高いが、その先どのような仕事か待っているのか、地元に戻るためにどのようなことを学ぶべきかという意識が不足していると感じる。

#### 進路指導部

- ・生徒は大学進学のイメージはできるが、大学卒業後どうするのかを見据えていない。ここがキャリア教育では大切なことだが、どのような分野の大学に進学するにしろ、地元の企業について知ることは将来の進路選択の際に有効になると思う。今後、地域振興局と連携して湯沢高校のような進学校を中心とした企画と一緒に考え、可能であれば本校にお招きし、いろいろなことを紹介していただく方法を提案してみたい。

### (6) その他

#### 校長

- ・来年度の1年生から新しい取組が進むということで、今後の教育の流れが少し変わってくる。教員養成という機関があっても教員の採用がほとんど無いのが実情であるが求められていることは極めて新しいことである。教員への要請はたくさんあり、要請があれば管理職として教職員へお願いするが現場の混乱は非常に大きい。例えばセンター試験も今後記述式問題が導入される。英語も外部検定を用いるというのがどの検定にするかなど不透明である。また、キャリア教育、アクティブラーニングなどの取り入れを求められており、うまく対応できるかが大きな課題である。しかし、不平不満ばかり言うてはいられない。湯沢高校は県内一伸びる学校と言われているが今後も継続できるよう、様々なことに取り組んでいきたい。
- ・職員の働き方改革がいわれている。教育はブラックだといわれており、5時以降に学校で仕事をしている時間が長い現状や部活動の面についてなど、様々なことが押し寄せてくるのであらゆることを同時並行で行わなければいけないと職員には話している。
- ・秋田県は学力調査の成績が日本で平均点は高い。実は学力の低い生徒へ丁寧に対応しているからこそその成績であり、この対応こそが秋田県の良いところだと思う。
- ・アクティブラーニングについて、秋田県の生徒の良さは様々な場面で発表できることだと思うので、良いところは伸ばしていきたい。入試での自分をアピールする要素に取り入れていきたい。推薦入試で大学受験をすることは秋田県の高校生は良い。関東圏の大学の先生方が

求めている生徒とは、純粋に真面目に一生懸命に様々なことに興味を持って生活してきた生徒だと言ってくれているので、これは使命だ。漢字が書けるか、文章が書けるか、計算できるかという根本的なところは最小限必要な学力なので、小中高校の繋がりで身につけられるように小中学校にも働きかけていきたい。そのためには湯沢高校生も外に出て湯沢高校も様々なことに取り組んでいることを知っていただくことも必要となるだろう。

この1年、評議員の方々、PTAの皆様の協力に感謝している。いただいた御意見を今後の教育活動にいかしていきたい。ありがとうございました。

#### (7) 閉会のことば